

# 資料 1

## 会 議 録

会議の名称	川島町学校規模適正化検討委員会第2回会議	
開催日時	平成25年7月31日(水) 午後2時～4時12分	
開催場所	川島町民会館 1階 研修室	
議 題	(1) 会議録署名委員の指名 (2) 小学校の配置及び規模の適正化に関する意見交換 (3) 小委員会の設置について (4) 今後の予定について	
公開・非公開の別	公 開	
非公開の理由 (非公開の場合のみ)		
出席者	委 員	第1号委員 梶野賀一郎、加藤静一、栗原 保 第2号委員 岡部登一、笛木 満、矢部 彰、鈴木俊夫、伊藤禎章、小久保 彰 第3号委員 岡部俊夫、山崎 武 第4号委員 蓮見重人 第5号委員 新井真理子、三田成克、黒岡諭志、染矢洋文、大畑 修 第6号委員 椎橋政広、藤間文隆、矢部京子、山口扶由子
	事務局職員	教育総務課 渡辺英夫、金井桂子、大野喜弘、山崎清美
配布資料	資料1 川島町学校規模適正化検討委員会第1回会議録 資料2 川島町学校規模適正化検討委員会小委員会設置要綱(案) 資料3 川島町学校規模適正化検討委員会小委員会委員名簿(案)	
<p>審議会等の内容・概要</p> <p>1 開会 岡部副会長</p> <p>2 あいさつ 富田教育長 加藤会長</p> <p>3 前回会議の会議録について(報告)</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 会議録署名委員の指名 ・会長より、栗原 保委員と岡部登一委員を指名した。</p> <p>(2) 小学校の配置及び規模の適正化に関する意見交換 ・委員から、現在の率直な意見や考えを聞いた。</p> <p>【意見】</p> <p>委員・人数が少ないとどうしても序列ができてしまう。学級編制をする際、2クラスになれる人数が必要と考える。 ・少人数のクラスは、外からは仲良く見えるが、伸びる芽が伸びない。</p> <p>委員・検討委員会の委員数は、昨年の研究会のときより多い24人である。今後、適正な学校規模・学校配置に関する基本的な考え方についてどう意見調整をして決定していくか、ロードマップを作る必要がある。 ・1クラスの理想的な人数は、中学校の教師だったので中学校しかわからないが、概ね</p>		

35人位かと思う。やはり、ある程度の人数がいないと切磋琢磨できない。

委員・学校の現場のことはわからないが、昭和45年8月に都市計画法で市街化区域と市街化調整区域に線引きされた。市街化は、住宅ができる地域で人口が増え、調整区域は、農地法等もあるが、宅地造成等が抑制される地域になった。少子化対策は国家の問題であるが、町をあげて全体で考えるべき問題でもある。町長をはじめ全課をあげて、今後の川島町について考えるべきである。

・人数で区切られた、型にはまった統廃合しかできないと思う。

委員・過去にとらわれず、子供たちのためにどういう指針を示した方が良いか、何人の規模が良いのか考えたほうがいい。当面、先のことが見えているので、思いきった決断をして、ある程度の形付をする必要がある。

委員・学校規模の適正化は、小学校だけでなく、中学校も含めて考えた方がよい。

・去年の研究会のまとめを参考に具体化して、決断してもらえればよいと思う。

委員・子供たちは、通学時に地域の方にあいさつしてくれる。そういった地元の児童が見えなくなるのは寂しい。

・自分としては、このまま出丸小学校を存続してもらいたい。

・学校規模の問題を議論する前に、若い人が住めるようにしたらどうかと思う。

・全国の事例をあげてもらい、どんなメリット・デメリットがあるのか知りたい。

委員・教育委員会の方向性が出せるのであれば、地域性も考えて提案してほしい。

・前回の報告書に基づいていけば、意見を出しやすいのではないかなと思う。

委員・統廃合して一つの学校にするのならいいが、そうでないと廃校にされる学校はいやだと思ふし、残された学校は良かったということになると思う。

・最近の先進地区の事例で、合併のメリット・デメリットを参考に聞きたい。

委員・自分が小学生の頃は、伊草は町で一番小さな村で人数も少なかったが、自分の子供の代になると、小学校は各学年3クラスずつあり800人規模になった。今は、340人位に減ってきた。前みたいに戻すことは難しい。

・どこの地区も、我が〇〇地区と、自分の地区の意識が強いのではないかな。

委員・自分の出身地では、幼稚園・小学校・中学校が同じ敷地内にあり10年以上同じ仲間と過ごしていたが、確かにチャレンジ精神は少ないと思う。現在は、複式学級になったと聞いている。

・先進地区の事例をいろいろ聞きたい。

委員・統廃合の話をする委員会として理解していいか。若い人がもっと増えるように考える委員会か？

委員・出丸小学校の規模は適正かどうかといえば、適正だと思う。学校規模適正化の件は地区に持ち帰って話しているが、みんな不安に思っている。

・学校規模の適正化の問題は、専門性のある人に話していただいた方がいいと思う。

委員・公民館を中心に地域の皆さんにも、学校行事にいろいろ携わっていただいている。無駄を排除するという考えでなく、判断基準を「子供たちに何がベストか」に置いて考えていければ良いと思う。

委員・全国規模で考えるのは、国や政治の役割である。今の川島の子供たちのことを考えるのが、この委員会である。

・学校の統廃合によって、地域から子供の姿が見られなくなるからさみしいというのは、大人の郷愁だと思う。

・4地区（三保谷・出丸・八ツ保・小見野）の学校をどうするかという話はだいぶ以前からあり、やっとスタートしたと思う。

・児童生徒がますます減っていく現状。複式学級も来年から始まるということ。1人の先生が同時に2つの学年を見ることは、やはり、教育上難しいし、ある程度の児童生

徒の人数が必要だと思う。

委員・クラス替えはあった方が良くと思う。

- ・今後の予測をみて1クラスあたりの人数は、20人から30人位がいいと思う。
- ・1学年が川島中・西中合わせて114人になる時(平成37年)は、中学校も1つでいいと思う。吉見中学校は1つだし、生徒数も多い。
- ・適正な学校規模の条件に、通学距離は小学校で概ね4キロメートル以内、中学校で6キロメートル以内とあるが、わが子の通学距離が倍以上になるのは、朝起きるのも早くなるし嫌だなというのが本音で、三保谷小学校は残してほしいと思う。

委員・三保谷小学校のPTAの方に聞いたところ、人数が少ないと学習面では行き届いてありがたいとのことであるが、地区役員の負担は大きいようである。

- ・三保谷小学校がなくなるのは、すごく悲しい。
- ・2クラス編制のできる、ある程度の人数がいるのが理想であると思う。

委員・小見野小学校は、公民館の協力等地域コミュニティの力がしっかりしているので、子供やお年寄りも安心して居る。それは大人から見ても安心と感ずる環境である。

- ・子供の視点では、クラスの人数が少ないと〇〇ちゃんは何が得意ということで固定化してしまい、最初からひいてしまうことがあると思う。
- ・自分の幼稚園教諭の経験では、20人を超えると集団が良くなる。また、そうした集団の力は大きいと思う。小学校にも適正な人数があると思う。

(3) 小委員会の設置について

- ・川島町学校規模適正化検討委員会の今後の審議を円滑に進めるために、小委員会設置要綱(案)と委員名簿(案)を提案した。

【意見】

委員・委嘱された24人が、全員何らかの小委員会に属するのかと思っていた。

- ・たとえば、①財政上の問題を考えるグループ②教育上の問題を考えるグループ③安全上の問題を考えるグループなどに分けたらどうかと思う。

委員・小委員会の役割として、研究会の報告書にある課題の整理をしたり、先進地区の事例をもっとあげたりして、検討委員会の今後の進め方を考えていくことが良いと思う。

- ・今日は案を提示されたので、委員名簿(案)に示された方に集まってもらい、要綱案の内容等について検討してもらったらどうか。

委員・小委員会で議題が決まったら、事前にいただきたい。

委員・小委員会は固定したメンバーにしないで、機能や期限を設けた方がいいと思う。

委員・代表だけの小委員会では、それぞれ事情が違い意見集約する時間もないので、個人的な意見になってしまうのではないか。

委員・財政面は町行政の問題で、学校規模適正化検討委員会で議論することは教育の面から議論することである。原案を小委員会で作っていくことが、時間的にもロスがないと思う。

(4) 今後の予定について

8月28日(水)に小委員会設置のための会議を開催する。

5 閉会 岡部副会長

署名

栗原保 

岡部登一 